

# 事業所における自己評価アンケート

事業所名 清瀬市子どもの発達・交流センターとことこ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点 良い点	工夫してほしい点 改善してほしい点
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	16		朝の受け入れ時の健康観察や体調不良時には、拠点となる居室以外にも部屋を用意する	
	② 職員の配置数は適切である	16		規定以上の人数が配置されている 子どもの数に合わせて職員配置をしている 身辺自立の度合いや安全管理視覚カードの提示などの工夫がされている	欠席多いなどお子さんの人数に対して大人が多すぎる場合は人数調整をおこなっている
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	16		活動と空間が可能な限り1対1対応になるよう工夫している。 書類のフォントサイズや、色を付	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。感染症対策は適切に行われているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	16		日々の清掃や空気清浄機の設置湿度を保つために加湿器だけでなく、スプレーにて居室全体を加湿している。冬季は床暖房を使用し、裸足での活動でも心地よく過ごせる 毎日の振り返りが行われている	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	16		日々の振り返りなど密に打ち合わせ 副主任以上の職員が参画して 保護者会の日程等をアンケートをもとに毎年変更している 前年度に保護者から頂いた意見を基に、今年度はおたよりの配布時期をなるべく早めてい	共有した情報を個別支援計画などへ反映
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	16			
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	16			契約時には説明しているが、利用中の保護者に公開された旨伝える事は十分には出来ていない。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	16		面談時に確認する事項を記録用紙に入れ込み、聞き漏らしがないよう工夫した。 おこなっている	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	16		法人内外で研修に参加する機会を全員が持っている。 事業内でも研修機会があり、みんなが参加できるようにしている	常にSVが受けられる体制が整っている。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	16		児童発達管理責任者とよく話し合っている 多職種がかかわって話し合いができています。 入園前面談時の聞き取り、センTASPを実施している	どうしても保護者のニーズが中心になってしまいがち。子どものニーズをどう聞き取るかは今後の課題
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	15	1	発達検査とかも含めて見ている センター内での検査以外にも、保育現場に即した項目でアセスメントを行うTASPを今年度上保護者との面談は年3回以上、所属園で観察、支援会議をおこなうことで具体的な支援内容になるように努めている きちんとなされている 個別支援計画に項目を含めて、具体的な目標設定になる	検査を利用しているのか、児発以外の職員は分からないかもしれない。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	16			
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	16		日々の振り返りの中で、支援を通して目指す子どもの姿や支援の意図に関して職員間でやり担任だけでなく、言語聴覚士、作業療法士による年間のプログラムを計画し実施している	振り返りの時間がなかなか確保できず、十分にやりとりできない日も
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	16			

⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	16		繰り返しの事で理解や安心に繋がるという視点も持ちつつ、週によってメインとなる活動を制作、表現、運動、言語・コミュニケーションとし、固定化しないようにしている。 専門スタッフによる表現遊び	
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	16		自由遊びの時間や年長児の個別指導の時間を設け、個別支援計画にも含めている。	
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	16		日々の振り返り、週一のグループミーティング、隔週の通園のミーティングをおこなっている。	
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	16		次につなげる話し合いもできている。	限られた時間内で、ポイントを絞った振り返りの時間になるよう工夫が必要である。 時間の確保が難しい
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	16		タイムリーに記録として残せない時にも、口頭で伝達することを意識している。 簡潔明瞭な記録になるよう意	タイムリーに記録に残しきれていないこともあり、書式や時間の捻出に工夫が必要
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	16			
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	16			
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	16			
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	12	3	子ども家庭支援センターと連携することで、子どもだけでなく保護者に向けた支え方を話し合うことができている。 ケアマネージャーやてんかんへの対応などしっかりやれている 保護者はもちろん、所属園の職員からの情報収集などを実施、そのうえで対応を検討している	
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連携体制を整えている	12	3	連携が必要な状況にはないが、態勢は整えている 医ケア児、重心児の支援は実施していない	
㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16		定期的に幼稚園や保育所とはやれている 個別支援計画や保護者を通じた情報共有以外にも、所属園へ出向いての見学や会議を	支援級や支援学校とのやりとり、もっとやった方が良いかも
㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	2		移行支援に向けては、面談の中で支援会議や個別支援計画の共有という選択肢を
㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12	4		移行支援に向けては、面談の中で支援会議や個別支援計画の共有という選択肢を
㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	11	5	全員平行通園のため、改めて交流の機会を持っていない。 普段みんな所属園をもっているため通園での交流の機会は少ないが、お散歩・図書館などへ行くことなどで触れ合う機会はある	

	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	16		子ども部会、要保護児童対策地域協議会へ参加している。	
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	16		連絡帳、電話、登降園時の申し送りなどで伝え合っている。個別支援計画の面談や日々の送迎時のやりとりにおいて情報交換を積極的に行っている。就	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	16		年に2回おこなっている。ペアレントグループの実施や、保護者会の機会をつくっている。保護者会については、多く	
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	16		契約時に行っている	
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	16			
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	16		子どもの送迎時のやりとりを通して相談に応じることができている。また、保護者との信頼関係を築くことも意識しており、保護	
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	16		保護者会の中には、保護者同士の悩みや気になっていることを共有することを通して、保護者同士の交流を後押ししてい	保護者会により多くの保護者に参加してもらうために、開催時期についてはその都度検討している
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	16			
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	16			
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	16		右前に入ったものはすべてフロッピー処理や溶解処分している	
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	16		手紙、口頭説明以外に電話にて再度確認をしている。視覚的な手がかりの活用、フォ	
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10	6	センターの特性、地域に開くということは難しいところがある。公開講座を実施したり、事業所の見学などは常時受け入れて	
	非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	16		児発職員以外にも周知し、フローチャートがある。またセンター全体でシミュレーションも実施した。
④2		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	16			不審者対応の訓練を、実施した方が良いと思います
④3		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	16		緊急の場合を想定して、対応するためのツールの準備や対応の流れを事前に話し合い、所内に周知している。看護師が支	通園に入っていない職員もわかるよう、どのお子さんなのか、服薬の保管場所に顔写

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	15	1		
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	14	2	事例集は作成していないが、事例が起きた時にその都度会議や打ち合わせで共有している	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	16		虐待ケース疑われるケースに対し、すぐ相談できる上司がいる	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	15	1		口頭では行われていると思うが紙面ではないので、それらが取り入れられると良いと思う。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。